

August 14, 2019

【前日の為替概況】ドル円、5日ぶり大幅反発 対中制裁関税「第4弾」の適用延期

13日のニューヨーク外国為替市場でドル円は5営業日ぶりに大幅反発。終値は106.74円と前営業日NY終値(105.30円)と比べて1円44銭程度のドル高水準だった。米中対立の長期化や香港デモ拡大への警戒感から売りが先行し、欧州時間には一時105.07円まで値を下げた。ただ、前日に付けた1月3日以来の安値105.05円や節目の105.00円がサポートとして意識されると下げ渋った。

NYの取引時間帯に入ると急伸。米通商代表部(USTR)は9月1日に発動する対中制裁関税「第4弾」について、携帯電話やパソコンなど一部製品への適用を12月15日まで延期すると発表した。また、中国商務省は「劉鶴副首相がライトハイザー-USTR代表、ムニューシン米財務長官の両氏と電話協議を行ったほか、今後2週間以内に再度協議することを計画している」と明らかにした。これを受けて小安水準で推移していたダウ平均が上げに転じ、一時520ドル超上昇。ドル円にも買い戻しが広がり、23時30分過ぎに106.98円まで急ピッチで値を上げた。米10年債利回りも一時1.7155%前後まで上昇した。

トランプ米大統領が「米諜報機関からの情報として、中国政府が軍隊を香港との境界に移動させている」とツイートすると、香港デモへの中国介入が懸念されて106.41円付近まで伸び悩む場面があったものの、下押しは限定的だった。

ユーロドルは3日ぶりに反落。終値は1.1171ドルと前営業日NY終値(1.1214ドル)と比べて0.0043ドル程度のユーロ安水準だった。時間外の米10年債利回りが1.61%台まで低下したことなどをながめユーロ買い・ドル売りが先行すると、21時30分前に一時1.1228ドルと日通し高値を付けた。ただ、前日の高値1.1231ドルを上抜けることは出来ず失速した。米国の対中制裁関税の一部適用延期発表を受けて、米10年債利回りが上昇に転じるとユーロ売り・ドル買いが優勢となり、23時前に一時1.1170ドルと日通し安値を付けた。その後の戻りも1.1195ドル付近にとどまり、終始さえない展開が続いた。

ユーロ円は5日ぶりに反発。終値は119.24円と前日NY終値(118.08円)と比べて1円16銭程度のユーロ高水準。米中貿易摩擦の懸念後退で米国株や日経平均先物が上昇するとユーロ円にも買い戻しが集まり、一時119.59円まで上値を伸ばした。ナイト・セッションの日経平均先物は日証終値比400円高の2万0750円まで上昇する場面があった。

【本日の東京為替見通し】ドル円 上値追いは危険か、カシミール問題なども今後の懸念材料に

本日の東京市場のドル円は、106円台を維持しつつも上値を追いかけて買うのは危険か。昨日、一昨日と2日連続して105円台割れを狙ったショートポジションは、米国の対中制裁関税の一部適用延期発表を受けて軒並みストップロスをつけて上昇した。しかし、ドル円は堅調に推移しているものの、この上を追いかけて買い上げることは難しいだろう。トランプ米大統領のツイートひとつで、いつこの流れの梯子を外されるか分からなく、再びドル売りに戻る可能性もある。特に、昨日の米国の発表でドル買いになる材料の出尽くし感もあり、ネガティブ・コメントの方に今後は反応しやすくなるだろう。もっとも、NY時間にトランプ米大統領が香港デモの中国介入を懸念する発言をしたことで、いったん下押ししたが、下押しも限定的だったこともあり、105円台に再び戻すには時間がかかるかもしれない。

米中の通商および為替競争以外にもドル円の売り材料は依然として複数残っている。香港のデモが泥沼化していることで着地点が見えないこと、アルゼンチン不安、中東問題、また、カシミール問題に関して中国がパキスタンと連携を取っていることも大きな地政学リスクだ。カシミール問題は、米中の代理戦争になる可能性もある。米中間はこのような問題も絡んでいることが、通商問題が進まない一因にもなっている。また、米連邦準備理事会(FRB)への利下げ圧力、日米通商交渉と、その時点での為替条項設置の可能性もドル円の上値を抑える要因になるだろう。

一方、ドル買いになる可能性としては、人民元取引の基準値が元安を回避できた場合か。元安が回避されれば、昨日の米国サイドからの態度軟化を中国も受け入れるとの判断から、通商摩擦の悪化を弱めることでドルにはポジティブになりそうだ。

ドル円以外の通貨は、昨日は比較的狭いレンジでの取引だった。しかし、本日は7月中国鉱工業生産と小売売上高、4-6月期豪賃金指数などが発表されることで、豪ドルが動く可能性がある。また、欧州時間に入ると4-6月期独国内総生産(GDP)速報値、7月英消費者物価指数(CPI)なども発表されることで、欧州通貨の動きにも要警戒となるだろう。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

○08:50 ◎ 6月機械受注（予想：船舶・電力除く民需 前月比▲1.3%/前年比▲0.6%）

<海外>

○09:30 ◇ 8月豪ウエストパック消費者信頼感指数

○11:00 ◎ 7月中国鉱工業生産（予想：前年比5.8%）

○11:00 ◎ 7月中国小売売上高（予想：前年比8.6%）

○15:00 ☆ 4-6月期独国内総生産（GDP）速報値（季節調整済、予想：前期比▲0.1%/前年同期比0.1%）

○15:00 ☆ 4-6月期独 GDP 速報値（季節調整前、予想：前年同期比▲0.3%）

○15:30 ◎ 7月インド卸売物価指数（WPI、予想：前年比1.93%）

○15:45 ◇ 7月仏消費者物価指数（CPI）改定値（予想：前月比▲0.2%/前年比1.1%）

○16:30 ◎ 7月スウェーデン CPI（予想：前月比0.2%/前年比1.5%）

コア指数（予想：前月比0.2%/前年比1.3%）

○17:30 ◎ 7月英 CPI（予想：前月比▲0.1%/前年比1.9%）

◇ 小売物価指数（RPI、予想：前月比横ばい/前年比2.8%）

○17:30 ◎ 7月英卸売物価指数（PPI、食品とエネルギーを除くコア指数、予想：前年比1.7%）

○18:00 ◎ 6月ユーロ圏鉱工業生産（予想：前月比▲1.4%/前年比▲1.2%）

○18:00 ☆ 4-6月期ユーロ圏 GDP 改定値（予想：前期比0.2%/前年比1.1%）

○20:00 ◇ MBA 住宅ローン申請指数

○20:00 ◇ 6月南アフリカ小売売上高（予想：前年同月比2.3%）

○21:30 ◇ 7月米輸入物価指数（予想：前月比横ばい）

○23:30 ◇ EIA 週間在庫統計

○トルコ（犠牲祭）、休場

15日

○10:30 ◎ 7月豪雇用統計（失業率/新規雇用者数）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

13 日 08:19 ケント豪準備銀行(RBA)総裁補佐
「豪ドル安は依然として経済の刺激になっている」
「慣例にとらわれない金融政策は可能」
「マイナス金利が必要となる可能性は低い」

13 日 09:20 シンガポール金融通貨庁(MAS)
「金融政策は据え置きの立ち位置」
「不定期の政策会合開催を検討していない」

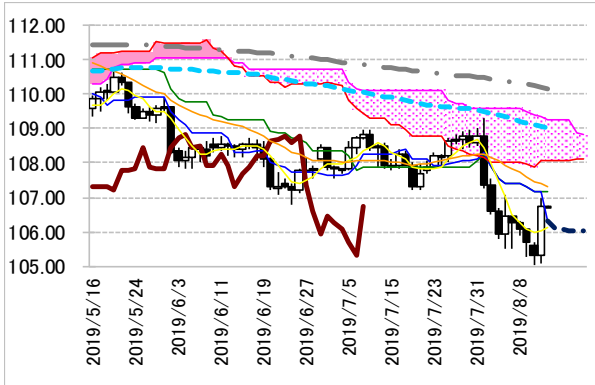
13 日 22:05 トランプ米大統領
「米国が受け取っている数百億ドル(関税)は中国からの贈り物」
「価格は上昇せず、インフレはない」

14 日 01:09
「中国との通商合意に対して楽観的」
「中国との閣僚級の電話協議はとても生産的だった」
「中国軍が香港との境界に移動しているとの情報を諜報機関から得た」

13 日 23:25 メルケル独首相
「現状、財政刺激策は必要ない」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕



＜ドル円＝NY 引けの水準が維持できれば転換線を上回る＞

太陽線引け。フラッシュクラッシュで年初来安値をつけた1月3日以来の105円割れを回避し、底堅さを示唆する下げを形成しつつ下げ渋った。レンジ切り下げの流れが収束し、6日以来、1週間ぶりの107円台回復目前まで上振れた。

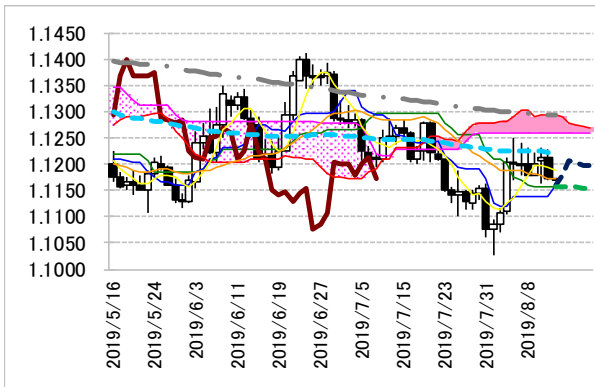
一目均衡表・転換線107.19円をこなせなかったが、NY引けの水準を維持するだけで、本日106.31円へ低下した同線を上回ることができる。抵抗を1つ突破することになり、これは明るい材料。一方、急上昇後の反動で、転換線の低下へ沿うように相応の調整が進む展開は視野に入れておきたい。

レジスタンス1 107.19(日足一目均衡表・基準線)

前日終値 106.74

サポート1 106.11(5日移動平均線)

サポート2 105.54(ピボット・サポート1)



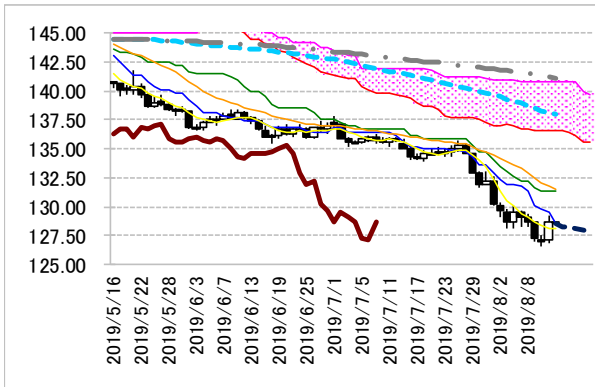
＜ユーロドル＝転換線が基準線を上回り買い示唆に＞

上影陰線引け。低下中の90日移動平均線付近が重く、1.1170ドル付近で切り下がる21日線へ追随する格好で下値を探った。しかし、本日は一目均衡表・転換線が1.1160ドルへ上昇。同・基準線1.1157ドルを抜けて買い示唆へ転じる。転換線前後で下げ渋り、再び90日線を試す展開とみる。

レジスタンス1 1.1222(90日移動平均線)

前日終値 1.1171

サポート1 1.1132(ピボット・サポート2)



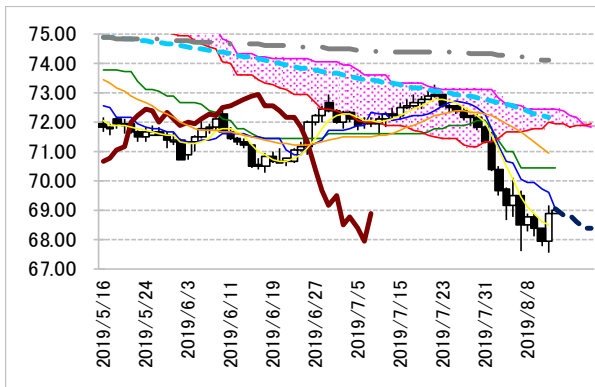
＜ポンド円＝転換線を上回る水準では相応の売り圧力を想定＞

太陽線引け。2016年11月以来の安値水準126円台で下げ渋り、一時129.23円と大幅に反発した。129.56円に位置していた一目均衡表・転換線を前に伸び悩んだが、本日128.49円へ低下する同線を上回ることができそう。低下中の転換線を越えた水準では相応の売り圧力にさらされる可能性がある。上昇するにしても6日高値130.07円が位置する前週のレンジ上限130円水準の回復には手間取るか。しかし、その付近の抵抗をこなせば、現在131円台で推移する21日移動平均線や一目・基準線が次のターゲットになる。

レジスタンス1 129.23(8/13高値)

前日終値 128.72

サポート1 128.21(8/12-13上昇幅の38.2%押し)



＜NZドル円＝5日線前後の底堅さ確認したい＞

太陽線引け。他のクロス円と同様に上押し、一目均衡表・転換線を前に伸び悩んだ。転換線は本日、69.02円へ低下するが、ドル円やポンド円のように、NY引けの相場水準を維持するだけでは上抜くことができない。まずは、下押しがあっても、底打ちした可能性がある5日移動平均線68.57円付近までにとどめ、地合いの底堅さを確認する必要がある。

レジスタンス1 69.62(8/7高値)

前日終値 68.89

サポート1 68.36(8/13レンジ半値水準)

